

令和 6 年 9 月 6 日

(2024 年)

和歌山市 企業局

水道工務部 管路整備課長

質 問 回 答 書

令和 6 年 9 月 4 日付けで質問のあったことについて、次のとおり回答します。

年 度	令和 6 年度
工事(業務)番号	第 24100035 号
工事(業務)名	大谷～栗配水管布設替工事
工事(業務)場所	和歌山市大谷地内から栗地内まで
質 問 事 項	回 答 事 項
<p>見積用設計書/一式当たり内訳書、第9号内訳書及び数量計算書「薬液注入工【二重管ストレーナ複相式】 施工箇所 北側発進側部」において、①削孔長及び②注入長、③1本当たりの注入量が見積用図面「07/26」と一致しません。</p> <p>① 削孔長 見積用設計書では「砂2.906m+粘性土2.0m=4.906m」に対して、見積用図面では「砂2.826m+粘性土3.40m=6.226m」になります。</p> <p>② 注入長 数量計算書では「粘性土 N値0～4 3.0m」ですが、見積用図面では「粘性土 N値0～4 3.40m、砂質土 N値0～30 1.876m、合計5.276m」となります。</p> <p>③ 1本当たりの注入量 見積用設計書では「注入対象土量粘性土 49.47m³×粘性土注入率28%=13.8516kℓ≒13.852kℓ、13.852kℓ÷22本=0.6296…≒0.630kℓ」、見積用図面では「(注入対象土量粘性土56.066m³×28%) + (注入対象土量砂質土30.935m³×砂質土注入率40.5%) =28.227155kℓ≒28.227kℓ、28.277kℓ÷22本=1.2853…≒1.285kℓ」となります。</p> <p>変更の対象と考えてよろしいでしょうか。また見積書の作成は設計書通りの見積もりでよろしいでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>設計変更の対象とします。また見積書は設計書のとおり作成して下さい。また現場条件等で薬注範囲が変更となった場合も、設計変更の対象とします。</p> <p>① 削孔長 見積用図面のとおり、「砂2.826m+粘性土3.400m=6.226m」になります。</p> <p>② 注入長 見積用図面のとおり、「砂質土 N値0～30 1.876m、粘性土 N値0～4 3.400m、合計5.276m」になります。</p> <p>③ 1本当たりの注入量 見積用図面のとおり、「1,283.045L」になります。</p>